

科目名 Course Title	大学院共通授業科目(教育プログラム):新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院教育コース		
講義題目 Subtitle	大学院発展科目 I		
責任教員 Instructor	谷 博文 [TANI Hirofumi] (大学院工学研究院)		
担当教員 Other Instructors	ロマーエヴァ マリーナ [LOMAEVA Marina] (高等教育推進機構)		
	ホイットフィールド デールリー [WHITFIELD Dale Lee] (高等教育推進機構)		
	ハズハ ブラニスラヴ [HAZUCHA Branislav] (大学院法学研究科)		
	エデルヘイム ヨハン リチャード [EDELHEIM Johan Richard] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
科目種別 Course Type	大学院共通授業科目	他学部履修等の可否 Open To Other Faculties / Schools	可
開講年度 Year	2023	期間 Semester	1 学期(春ターム)
授業形態 Type of Class	演習	単位数 Number of Credits	2
対象学科・クラス Eligible Department / Class	-	対象年次 Year of Eligible Students	-
時間割番号 Course Number	-	補足事項 Other Information	-
ナンバリングコード Numbering Code	IGS_IDS 9211		
大分類コード・名称 Major Category Code / Title	IGS_IDS・大学院共通授業科目(複合領域)		
レベルコード・レベル Level Code / Level	9・その他(海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目)		
中分類コード・名称 Middle Category Code / Title	2・キャリアマネジメント		
小分類コード・名称 Small Category Code / Title	1・キャリア開発		
言語 Language Type	英語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Course list by the instructor with practical experiences	-		
キーワード Key Words	課題解決、プロジェクトマネジメント、「3+1の力」(自己更新力、組織形成力、社会還元力および専門職倫理)、リーダーシップ、コミュニケーション、チームビルディング、ファシリテーション、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーション、フィールドワーク、アントレプレナーシップ		
授業の目標 Course Objectives	本科目では、専門性の異なる学生がチームを組み、それぞれの専門性の強みを活かした協働を通して、与えられた課題に対して解決策を提案する。原因、先行事例の調査や論拠となるデータを課題のコンテキストに即して分析し、異なるアイデアを統合して、独創的な解決案を創出する。また、ビジネスプラン等の検討を通して解決策を実行可能になるかを考え、対ステークホルダーを想定したプレゼンテーションを行う。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な課題の解決に向けた生産的協働のためのチームマネジメント(役割の明確と実践)ができる。 提示された課題に対して、先行事例、類似事例に関する適切な二次資料の収集および課題の背景とコンテキストに照らした批判的な比較分析ができる。 解決策の提案に必要な調査・分析手順を設計し、それに伴う時間管理ができる。 得られたデータや情報とそれらの論理的解釈に基づいた説得力のあるプレゼンテーションができる。 アントレプレナーシップ(起業家精神)について理解を深めることができる。 		
授業計画 Course Schedule	本科目では、課題として、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)をはじめ一般的かつ分野横断的な社会問題が提示される。必要に応じて、データ収集・分析など調査・研究手法や、それに伴う倫理的責務等について講義する。学生はチームでプロジェクトを行い、課題解決案を提案する。		

【プロジェクト】

- ・担当教員から具体的な話題や先行事例を提供する。また、必要に応じて、さまざまな分野に精通した外部講師を北海道大学内外から招き、取り組む課題、先行事例の提供を求める。
- ・学生は、課題に即した適切なデータを収集・分析し、異なる専門性の相関から独創的で実行可能な解決策の提案を目指す。
- ・この目標に向けて、プロジェクトマネジメントの知識とスキルを活用し、ガントチャート、役割分担を明確化するとともに、スケジューリングと時間管理を通して、最終プレゼンテーションまでの作業行程を俯瞰的に捉え、効率的に協働を進めるための計画を立て、実行する。
- ・必要に応じて調査の手法（インタビュー、アンケートなど）を選択し、立案した計画に基づき、調査を行う。学生は授業に出席して協働に参加するだけでなく、事前調査やレジュメの作成など様々な形でチームに貢献する。資料や進捗状況は新渡戸ポートフォリオ (NPF) で記録・共有する。
- ・立案した解決策について、どのように実現可能なプロジェクトとして社会に還元できるか、ビジネスプラン等の検討を通して考える。また、必要に応じて、起業家を外部講師として招き、起業家精神や起業の意義、方法について講演をしていただく。

【プレゼンテーション】

- ・与えられた課題に対する調査結果や結論の口頭発表を行う。説得力のあるプレゼンテーションに向けてスライドのデザインや口頭発表の設計と練習を行う。チームで到達した結論を順序立てて説明し、聴衆が理解しやすい発表を目指す。
- ・プログラムの学修成果の還元の一環として、プロジェクト成果発表を学内外、関連するステークホルダーに開かれた形で実施する。

【省察と今後の学修目標】

ターム全体を振り返り、学修できたこと・できなかったことを明確化する。取り組んできた課題に対して、どこまで解決できたのか、何が未解決として残るのか、新しく見えてきた課題は何かを考察する。また解決案は、どのような社会的価値を提供できるのか、今後に向けて考察を加える。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

毎授業後、学修の成果と自己分析を Nitobe Logbook に記録するとともに、NPF を通じて授業内容についてのコメントと自己評価を提出することが求められる。

成績評価の基準と方法 Grading System

授業への積極的参加とチーム学習への貢献、プロジェクトの発表、Nitobe Logbook に記す学修記録と自己分析、NPF における授業内容へのコメントと自己評価、ターム終了後に学修成果を自ら認識し、将来の学修目標の見直し・再設定するために提出が求められる Term Self-assessment Report が評価対象となる。その他、必要に応じて評価に関わる課題が追加された場合は、随時説明がある。

テキスト・教科書 Textbooks

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided when necessary.

講義指定図書 Reading List

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided when necessary.

参照ホームページ Websites

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>, <https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/en/>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

特記事項なし

備考 Additional Information

本科目は、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院教育コースの主要科目である。したがって、受講には、新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースを修了していること、同オナーズプログラム大学院教育コース履修生であることが条件となる。「大学院発展科目 II (Advanced II)」を履修するためには、この「大学院発展科目 I (Advanced I)」を履修していることが必要である。履修に関する詳細については、必ず大学院教育コースの履修の手引きを参照すること。

本科目に関する問い合わせ先; nitobecollegegraduates@high.hokudai.ac.jp